

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



指 物

わた なべ りん ぞう
渡 辺 稟 三

(平成3年度作品)

16mm映画・ビデオ
カラー・18分

プロフィール

住所、荒川区荒川3-26-1。

大正3年(1914)、東京都生まれ。

平成2年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

昭和2年、13歳のとき谷中在住の岡本正道氏に弟子入りし、指物の技術を修得した。

25歳のとき現在地で独立。桑、桐、きはだなどを材料として、たんす・鏡台・衣裳引出しなどの大物から、楊子入・箸箱・宝石箱などの小物類まで手がけている。

桑物師を継承し、桑独特の木目の美しさや光沢をひき出すことを常に考えつつ、注文に応じて、こしらえているという。

桑材は、「島桑」とよばれる、御蔵島産、三宅島産のもので、20年以上もねかせたものが使われる。

後継者の長男・光氏とともに天然の素材と取り組む毎日である。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

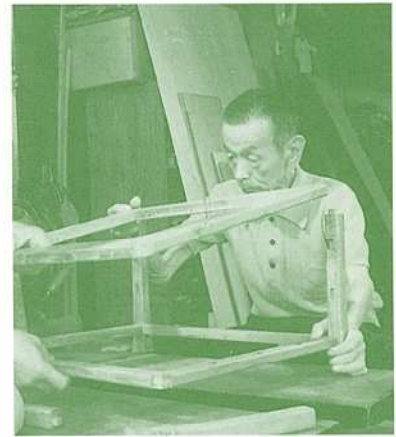
用具・工具

のこぎり、かんな、ちょうな、がんとう、しのぎ、のみ、げんのう、小力、罫^け引き、ヤスリ、はた金、紐、接着剤、サンドペーパー、ムクの葉など。

工程——「びんかけ火鉢」の場合——

(材料) 丈夫で木肌が美しい三宅島産の桑。

- ① 木取り(組み上げていく各部分、脚や縁^{ふち}などの寸法をとる)
- ② 墨付け。
- ③ 墨付けの線に沿ってかんなをかけ、縁や台輪^{だいわ}等をつくる。
- ④ 脚を墨付けし、のこぎりで所定の寸法に切る。
- ⑤ 罫^け引きで格子の溝穴の位置を決め、げんのうとのみで格子の溝穴をつくる。
- ⑥ 縁にちょうなやかんなをかける。
- ⑦ サンドペーパーで面取りをする。
- ⑧ 台輪の枠付け。接着剤を塗ったやといほぞ^{やといほぞ}を差しして台輪の枠付け。
- ⑨ 縁の枠付け。
- ⑩ 脚部の彫刻。
- ⑪ 格子のヌキの長さを測り、寸法に合わせて切る。
- ⑫ 格子を、はた金で締める。
- ⑬ 縁と脚に接着剤を塗る。
- ⑭ 脚を台輪に差し込み、縁をのせる。
- ⑮ はた金で締めて火鉢を固定する。
- ⑯ 銅でできたオトシをのせる。
- ⑰ 木目に細かいヤスリをかけ、ムクの葉で磨く。
- ⑱ 漆を塗って仕上げる。



高さ32センチ、一辺57センチの、びんかけ火鉢。

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。